

岩津 厚子選

特選 呪文もて糶進みゆく桜どき 朝妻 力

入選 造船の鉄塔太し鳥帰る 塩見 道子

すなほなる流れ通せる朝桜 山尾 玉藻

子午線の町へ迷はず燕くる 宮谷 昌子

海に向く二つの櫓鳥雲に 小野 勝弘

花つむじぶつかつて来る虚子忌かな 南 うみを

二尺余の鯛の活絞め仏生会 田邊 富子

陽炎いて明石大橋ひと揺すり 梶 弥生

花冷や呪文のごとき競り終はり 上西 美枝子

生国の見ゆる糶場の春の海 松浦 千賀子

花は楚楚城恢恢と風渡る 柴田 香女

五葉松寸余の芯を立てにけり 長谷阪 節子

津の道の果ては寺町花の冷 本下 堯敏

桜鯛せりの最後はじゃんけんで 井上 美代子

花虻の音の高さに淡路島 堀 瞳子

耳穴のかゆくて桜蕊の降る 西村 信子

日曜の桜蕊降る船溜り 宮永 順子